

坂越（坂越湾周辺）地区 歴史文化の視点2

# 15. 港町・坂越

## 【ストーリー】

文安2～3（1445～1446）年における兵庫北関（現在の神戸市）への入船記録「兵庫北関入船納帳」には、船出し港として「坂越」の名が登場する。湾状地形と生島によって荒波から守られた天然の良港坂越浦は、漁業とともに廻船業で発展した。

千種川では高瀬舟による流通が行われており、年貢米をはじめとした貨物は高瀬舟船着場で荷揚げされ、坂越の主要道「大道」を通って坂越湾で

廻船に積まれ、大坂をはじめとした全国各地へと運ばれた。

また江戸後期になると赤穂で生産した塩を運び出す塩廻船が栄え、坂越は港町として活況を呈した。「黒崎墓所」（県指定史跡）は、坂越近海で客死した水夫などの墓地であり、埋葬者の出身地は北は出羽から南は種子島まで広い範囲にわたる。

大避神社の秋の祭礼「坂越の船祭」は、近世海運の隆盛を今に伝えている。

